

# 中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL 048-873-0216 FAX 048-810-1120

知・徳・体の調和のとれた  
心豊かな児童の育成

学びいっぱい 楽しさいっぱい 元気いっぱい

## 感受性を育む秋 ～先人たちの想いを感じて～

校長 石田 成夫

暦の上では秋を迎えながらも例年にない暑さが続いていた9月でしたが、ようやく秋の涼しさを感じるようになってきました。校庭にそびえるメタセコイアも、少しずつ葉の色を変え始めています。緑豊かな中尾小学校の樹木が、鮮やかな秋の色に染まる季節が楽しみです。

さて、9月11日、12日に、6年生と一緒に日光へ修学旅行に行ってまいりました。天気予報は雨でしたが、実際に現地に着くと概ね曇り空で日が差す時間帯もあり、悪天候を跳ね除ける子どもたちのパワーに驚かされました。この2日間、東照宮を彩る技巧の素晴らしさ、中禅寺湖や華厳の滝などの自然の美しさを、子どもたちは自分の目で見て、感じ取ることができました。人間が長い年月をかけて培い、守ってきた知識や技術、そして美しいものを尊ぶ心情などを受け止め、自らの財産として磨き上げ、さらにより形で未来の子どもたちへ伝えていってほしいと思います。



### 「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる」

これは平安時代の歌人で三十六歌仙の一人でもある藤原敏行（ふじわらのとしゆき）の短歌で『古今和歌集』に収録されています。現代の言葉で言い換えると「秋が来たということは、目にははっきりとは見えないけれど、吹き抜ける風の音で（秋が来たことを）はっと気付かされた」という感じでしょうか。この短歌に出会ったのは、自分が小学校のときの国語の授業だったのですが、目で物を見る「視覚」ではなく、耳で聴く風の音という「聴覚」で季節の変化を感じ取った作者の感性に感動し、それ以来、とても好きな短歌になりました。

落ち葉を踏む音や虫の声、朝夕の冷たい空気、青空に広がるうろこ雲など、秋という季節には古来より独特の風情があります。「天高く 馬肥ゆる秋」という言葉が表すように、空気が澄んで空が高く感じられるようになったり、夕焼けが鮮やかに見えるようになったりするのも秋の特徴です。秋の美しさは、「静けさ」「気配」「余韻」など、はっきりしないものや言葉でうまく表せないものに美しさを感じるという日本的な美意識（幽玄）につながっています。これらの秋の美しさは、モニターの画像やスピーカーで再生した音、説明のためのテキストだけでは伝えることが難しく、人間の五感で直接感じ取る必要があります。そして、五感を生かして季節を感じられるような繊細な感受性を育むことは、人の気持ちをとらえる力、人を思いやる優しい気持ちなど、豊かな心を育てることにつながります。

地球環境や気候の変動で、秋という季節がわかりにくくなっている昨今ですが、ご家庭や地域の皆様におかれましても、子どもたちと一緒に秋の訪れを感じ、その繊細な美しさに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

## 読書まつり ～秋のファミリー読書のお願い～

10月は「読書まつり」として、さくらんぼ読書郵便やさくらんぼ読書交流会、図書集会、秋のお話会など、子どもたちが本に親しむための様々な取組が予定されております。そこで、保護者の皆様におかれましては、「ファミリー読書」にご協力をお願いします。10月10日（金）に記録用紙を配布いたしますので、15日（水）までの6日間の様子を記録していただき、16日（木）に子どもに持たせてください。読書を習慣化するきっかけとして、また読書を通じた家族のふれあいの時間としてご活用ください。

